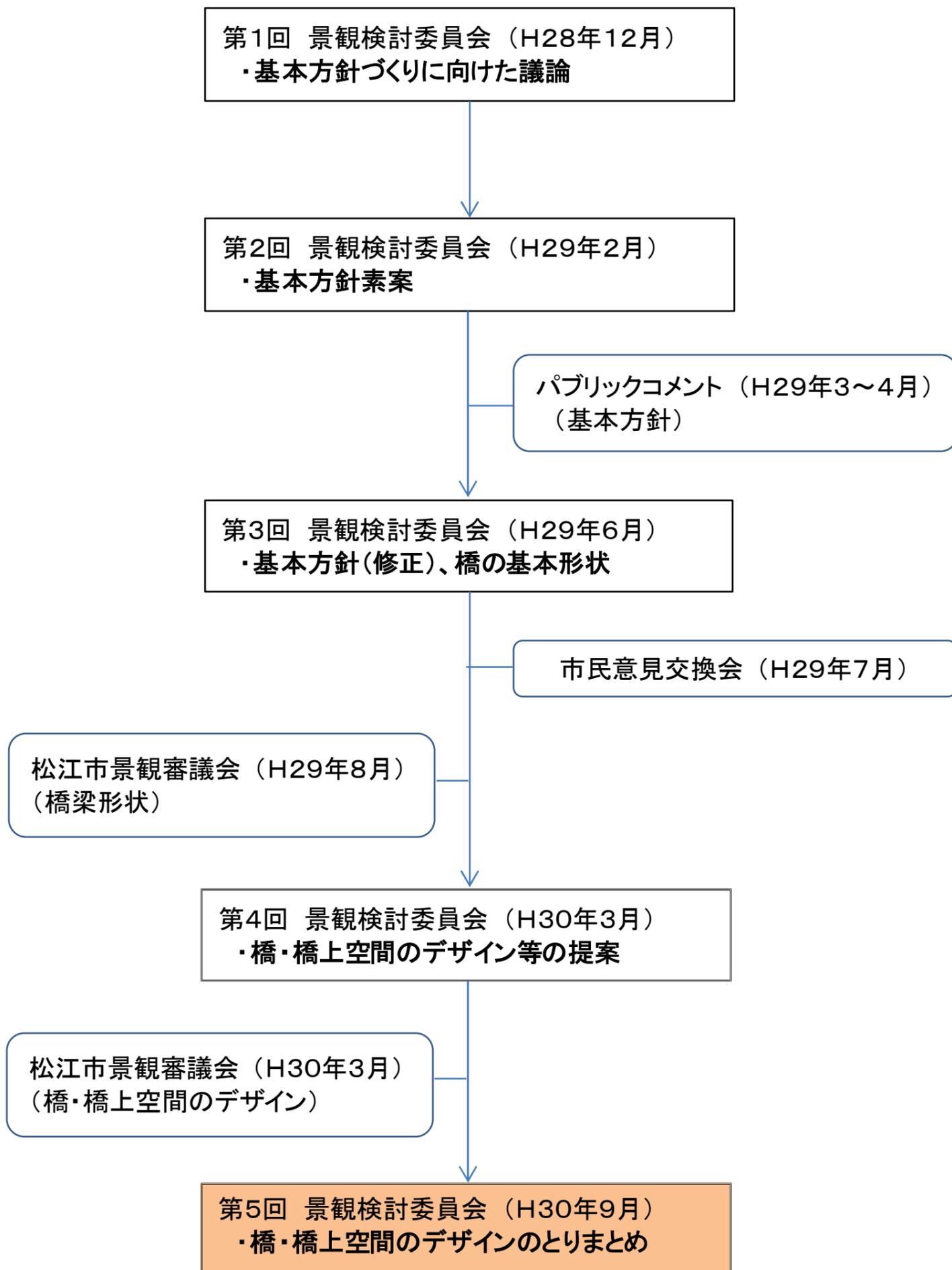


これまでの検討経過

説明資料	これまでの検討経過 第4回新大橋景観検討委員会 議事要旨 新大橋整備基本方針
------	--

■これまでの検討経過



第4回 新大橋景観検討委員会 議事要旨

日時及び場所

日時：平成30年3月13日（火）13時30分～17時10分

場所：県民会館 大会議室

出席者

飯野委員、大屋委員、柴田委員（代理：藤井）、田中委員、二井委員長、藤居委員、本間委員、吉田委員、渡部委員

議事次第

1. 開会
2. あいさつ
3. これまでの検討経過【説明資料】
4. 議事
 - 1) 橋のデザインについて【資料1】
 - 2) 橋上空間のデザインについて【資料2】
 - 3) 橋詰空間について【資料3】
5. 閉会

配付資料

委員会次第

座席配置図

委員会規約

委員名簿

説明資料 これまでの検討経過

資料1 橋のデザインについて

資料2 橋上空間のデザインについて

資料3 橋詰空間について

議事概要

※委員会を欠席した委員には予め意見を伺い、委員会にて事務局より報告した。

この議事要旨にも当該意見を記載している。

1. これまでの検討経過

- ・意見無し

2. 議事1) 橋のデザインについて

【意見】

①橋本体のデザイン（橋の断面形状）

- ・基本方針にある「佳麗な」橋とするために、桁表面に細い線状の部材をあしらうなど、ボリューム感を軽減する工夫をしてほしい。特に、水上から見た桁裏のボリューム感を抑える工夫をしてほしい。主桁や横桁など桁裏として見える部分をリズムあるような形状にしてほしい。
- ・プレキャストの床版であったり、合成桁にしたり、ブラケットの間隔が2mピッチになったことによって、高欄等の一体化によって構造上、非常にシンプルになって、良いデザインになったと思う。プレキャストにすることによって工期が短縮できたり、今古い橋を新しくするときはプレキャストでやっていくが、最初からその構造を入れた形であれば100年以上考えた時に合理的な維持管理ができるかなと思う。
ただプレキャストの部材をつなげていくので、そこから長期のところでひびが入ったり、漏水などのケアは必要だと思う。そういった面を含めても全体としては合理的なものになって、景観上もシンプルだと思う。
- ・日本全国でRC床版というのは問題になっていて、今回特に新大橋の場合は架け替えの時間をできるだけ短くすることも大事な目的の1つだと思うので、まさにその点もクリアしていると思う。
- ・非常に張り出しが大きいことによって良い形が生まれている。シンプルな橋だが、松江らしい、オーソドックスの中にもきちんと新しい技術を使うということも凄く良いところだと思う。
- ・形としては非常によくなったが、かなり張り出し部が大きくなった。5年に一回点検をしなければいけないが、点検計画も踏まえたうえで細部まで検討していただきたいと思う。
- ・張り出し部の点検について、非常に重要なご指摘であると思っている。最終的にまだ確認

できていないが、この歩道の中に橋梁点検車を入れた点検が可能かどうかを含めて、検討をさせていただきたい。

・歩道に点検車を入れても、アームが出て安定させるのは、この歩道幅では難しいと思う。ロープアクションという点検方法などもあるので、そういったことも踏まえて是非計画をしていただきたい。張り出しが駄目という訳ではなく、検討の段階から長く使えるよう維持管理の方法についても考えておいてほしい。

・橋脚点検車の話が出ているが、今くにびき大橋から歩車道境界の高欄を一時的にとつて、レッカー車が座って、桁の裏に入っている。自分の会社で経験しているので、その辺のスペースの問題、その辺りの案を見せていただきたい。

②橋脚のデザイン（形状）

・橋脚は側面形状だけでなく、断面形状にも変化をつけてほしい。

・橋脚形状が上すばまりなので、実際に作るときに型枠の使い捨てのないような検討や鉄筋をうまく作る検討を是非していただきたい。実際ボリュームが減るとコストは下がるが作る手間はかかる。そういったことを含めたいので検討が必要。

・円形というのは河川の中に建てる橋脚としては一般的に使われるもので、直線よりは苦勞はあると思うが一般的な型枠の範疇になるのではないかと認識している。また、テーパーがつくと現場の方は大変かと思うが、型枠としては可能なものではないかと思っている。鉄筋は複雑な形になるのではないかと我々も想像しており、できるだけシンプルにできるような工夫を詳細設計の中で検討したいと思っている。

・型枠を使い捨てにして無駄な形ではなくて、コストを下げても使えるように検討していただきたいことと、施工時に骨材が入らないことがないように、また、被りがきちんととれるようにして、施工不良がないように確実な施工ができて、長寿命化に繋がるように検討いただきたい。

・橋脚の形状の上すばまりの効果は結構大きい。私の経験でも、鉄筋を同じ形にできる上すばまりの形があるので、施工に負担がかからないやり方でおさめることも可能と思う。

・橋脚の参考として、嫁島、国道9号線から山陰道へ向かう高架橋の橋脚を見ると、上が相当広くて、下が細い。高さが10～14mくらい。私も多少関わっていたが、極端に良い印象ではないので、ある程度参考になるのではないかと思う。

③側面シルエット

・意見無し

④橋脚の表面仕上げ

・表面仕上げは打ちっぱなしでもいいが、普通の合板型枠ではなく、型枠の工夫をして表情を持たせてほしい。

・橋脚は非常に大きなコンクリートの塊になると思うので、少し検討の余地があるのではないかと思う。一般的な手法としては、資料で示されているような縦スリット、あるいは粗面化、表面を石張りにする手法がある。また、分節化する手法もある。縦横の線を入れるパターンで良いと思う。単純に縦横に入れるというよりは、何か由来があることはないかなと思っており、例えば、堀尾氏のゆかりの紋で「六つ目結」というのがあり、それをモチーフにすれば縦横の線を入れる言われにもなるし、尚且つ歴史的な繋がりにもなると思っている。ただ、線を入れて収まりが良いかどうかは別で、そういうことを踏まえて検討していただきたい。

・型枠は工夫できないのか。しまね景観賞で今年奨励賞を受賞した松江市総合体育館は、相当に型枠を工夫した事例になる。型枠仕上げにするところまでは良いと思うが、この写真と同じのが出来るか、違う感じになるのかというところが気になる。

・型枠の工夫で言うと、Aは一枚の合板を綺麗に並べる案だと思うが、これをきちっとやればきれいな形が出ると思う。それ以外に例えば小幅板といって、杉の目が浮かび上がるようなやり方もある。型枠の仕上げの部分だけについて、次回候補案を出していただくというのはどうか。

・先程から型枠についてご意見をいただいているので、再度検討をさせていただき、型枠の中でいろんな工夫ができないかということを検討させていただいて、次回ご提案をさせていただきたい。

・ブラケット上に結構いろんなものが来るので、橋脚が同じくらい頑張ってしまうと非常にうるさくなるかなと思う。人が近くで見るとあると思うので、基本的にはシンプルなものの中で、コンクリートでのっぺりした印象だけでなく、柔らかさが出るものも検討していただきたい。

⑤張り出し部のデザイン

- ・張り出し部は細い部材により繊細になっていてよい。
- ・上部工については、コンセプト通りの軽快な形ということで、それが実現しており非常に良いと思う。
- ・今日の資料全体にそうだが、どの案も一種類しかないので、分かりにくいところがある。
- ・橋脚の先端形状は、シャープな印象の六角面取りより、柔らかい印象の半円にするのとあるのに対して、ブラケットの形状がシャープな感じもする。ブラケットの三角形のくりぬき方と、橋脚にアンバランス感があり、別々に設計されたのかなという印象を持った。ブラケットのくりぬき形状の案が1案しか出てないが、橋脚先端を半円にするなら、くりぬきの角をもっと丸い感じにしても良いのでは。あるいは、そうするとおかしいからこの案になっているという説明が必要では。下の橋脚と上のブラケットのバランスを比較した図がないと分かりにくい。くりぬき形状の案がいくつかあると良い。
- ・確認だが、今は最大限に抜けるだけ大きく抜くようにしているということか。

(上記質問に対する事務局回答)

- ・景観と、構造的な合理性のバランスというのを、常に図りながらこの図面をおこしていく中で、構造上必要な部材として、今一番最小限で、逆に言うと、くりぬいた部分大きい方が繊細な印象で良いのかなということで、構造的にも最小限だし、景観的にも良かったのかなと思っている。
- ・全体として橋脚の見えてくる数と、ブラケットの本数はだいぶ違うと思うのはあるが、1案だけじゃなくて、いろいろ検討したうえでこの結果になっていることを説明すべき、ということか。
- ・いきなり1案だけを出して、じゃあこれで良いですねというのはちょっと違うと思う。
- ・ブラケットのピッチの検討結果、穴が変わるとどうイメージが変わるのかということを示すことが可能か。ピッチが変わった時に、穴の大きさも変わったりするか。

(上記質問に対する事務局回答)

- ・(スクリーンに、支持部材の配置間隔を2m、3m、4m、5mに変えた場合の支持部材の基本的な形状を示しながら)我々もこれを提案する際にいろいろピッチを変えて、どん

な支持部材の形状になるのか、構造検討も合わせて検討している。基本的に、ピッチが広がるに従って、ブラケットの穴はだんだん小さくなっている。それは荷重をたくさん受け持つということで、どうしても穴を小さくせざるを得ず、こういう形になってしまうが、我々としては一番繊細さを出したい。一番細い、穴が出来るだけ大きくとれる2mピッチの形状について今回提案をさせていただいたところ。

- ・プロセスとして、こういったのが欲しかった。例えば5mピッチから、2mピッチになる時に、こういうのを出していただくと非常にありがたい。こうやって作られていることや、プロセスが見える。
- ・支持部材は単純なプレートか。それで出来るか出来ないかが決まると思う。
- ・基本的には、板から切り抜く形になると思う。
- ・1枚の板に穴をあけて、その縁にフランジと呼ばれる部材をぐるっと回す形。
- ・単純にくりぬくだけなら、まだ簡単。最初からアングルのみは難しい。
- ・Rが入っているので、基本的にくりぬいて形状を作る。力の流れを考えたりそういった部分で、どうかなというところだと思う。私の印象としては、デザインをどう考えるか。丸いものをたくさん並べた方がいいのか、丸を強調するために、スレンダー三角を入れることによって、橋脚の丸みを強調するという、どちらを選ぶかというところがある。同じものを並べてしまうと、同じような印象になるが対照なものを入れることによって、橋脚の曲線を活かすというのも考え方はあるのかなと思う。ただ、どれくらいにすればいいかは、やはりいくつか並べて検討した方が良いのかなという気はする。
- ・提案のブラケットの形は、私の理解では、下から支えている手があって、上の床組みを支えている手があって、丸い穴を抜きたいというよりは、2本のをしっかり細く作りたい趣旨なのかなと思う。ただそれをどう桁に止めるかとしたときに、その下のものが1本だと、止まるけれどそこを異常に接合がややこしい形になってくることがあって、付け根では、側面が少し残っている。そういう形になっているのかなと思うが、その辺はそういう理解でよいか。
- ・概ねそのとおり。根元の主桁のところには1本残っているのは、シンプルな定着を目指した結果、このような収まりになっている。結果的に真ん中に穴をぬいている形になっているが、下から斜めに上で支えているところが一番構造的なポイントになっている。

- ・厚みを変えてという意味ではない。くりぬきの形の調整を言っている。
- ・私は今の形がとても良いなと思った。例えば横から光が当たった時に、今も少し見えるが丁度三角の部分が上手く映るのではないかと思う。
- ・面取りの形を何倍にも大きくしたらということではなく、微妙な差も含めて検討したうえで決定するというプロセスをしっかりと組んだ方が良いということか。

【総括】

- ・橋本体のデザイン（橋の断面形状）は、事務局案とする。
- ・橋脚のデザイン（形状）は、事務局案とする。ただし、型枠をより簡単に設置できるよう、また、鉄筋加工の労力が必要以上に増えるということがない工夫をしっかりと検討し、詳細設計を進めてほしい。
- ・側面シルエットは、事務局案とする。
- ・橋脚の表面仕上げは、Aの型枠で仕上げる方法とするが、合板なのか、あるいは小幅板や模様が少し出るものなど、同じ型枠仕上げで、シンプルな中にスケール感がでるようなものを検討する。
- ・張り出し部のデザインは、事務局案とする。ただし、ブラケット開口部の形については、全体のバランスを見ながら、面取りのRの大きさが現案で良いか検討する。
- ・張り出し部や桁の裏側の点検の仕方について、検討が進んだら報告する。

3. 議事2) 橋上空間のデザインについて

【意見】

①橋上の基本構成（車両用防護柵）

- ・今回提案の既製品が良いと思うが、メンテナンスや点検を考えると、できれば埋め込むタイプではなく、取り外しができたりパーツ化される方が良いのかなと思う。埋め込んでしまうとコンクリートを取り壊さないと取れなくなるが、点検をする時に外すことができたらいいなかなと思っている。
- ・既製品の色味と高欄の色が合うのか心配。配慮をお願いしたい。

- ・次回、防護柵と高欄の相性を踏まえた色彩を出していただきたい。

- ・鋼製にしたいと思うが、定着に関しては埋め込んで大丈夫かという意見もあったので、技術的なことを次回出してもらいたいと思う。ただ、基本的には埋め込まないと支柱一本当たり4本のボルトが露出するので、かなりとげとげしい感じがする。事務局の方で埋め込みかベースプレート型かで耐久性等について、補足説明が可能か。

（上記質問に対する事務局回答）

- ・埋め込み、ベースプレートのどちらも基本的に耐久性に大差はない。見た目は先ほど言われたように埋め込みだと非常にシンプルで、ベースプレートだとボルトが表面にたくさん出ているということで大きな違いがあるが、維持管理的には基本的にきちんとメンテナンスをして取り換えが起こらないようなことをするのが本来だと思うので、どちらを採用しても同じかと思う。

①橋上の基本構成（排水）

- ・この鋼製排水溝のアイデアは非常に良いと思うが、自転車も通ることも考えた時に、この蓋かけの部分の色味をどうするかを検討した方が良いかと思う。少なくとも塗装するなど考えていただいた方が良くかなと思う。

①橋上の基本構成（誘導ブロックの素材）

- ・どういうものを使うのか。
- ・まだ具体的な検討はしていない。方法としては、ブロック状の30cm角くらいのものを敷き並べていくやり方、上からペタッと貼るようなやり方、溶着式といって区画線とかと同じような感じで書くやり方など、いろいろバリエーションがあるが、まだ具体的に決めているわけではない。
- ・自転車で今年2度ほど誘導ブロックの上で滑っている。結構痛い思いをしたのでそういった点も配慮してほしい。
- ・誘導ブロックは、後で貼るようなものでなく、ちゃんとしたものを入れていただくのが長持ちして維持管理上も良いかなと思う。
- ・貼るものでなく、松江の工場では特別なものをつくっている会社があったような気がする。東京パラリンピックに向けて一生懸命そういうものをつくっていた。調べていただければと思う。

- ・確かにヒールのある靴を履いていると雨の日も滑りそうになる日もあるし、逆に車いすの方はガタガタするということもある。

- ・視覚障がい者誘導ブロックは、空間の印象にも大分効いてくる。今のような機能の問題もあるので、選ぶときにいただいたアドバイスも含めて検討していただければと思う。

②橋上空間デザインの方針

- ・e の照明で、「松江大橋との関係性」を「松江大橋とその周辺との関係性」というように少しエリアを広げた照明を考えていただければと思う。

- ・重要なお指摘だと思う。もともとそういう話で来ていたかと思うので、「松江大橋とその周辺との関係性」にさせていただくのがより今までの議論からすると正確かなと思う。

③舗装

- ・舗装は敷き均し系がよく、特にセメント系（洗い出し）がよい。

- ・脱色アスファルトというのは日本語が極めて良くないと思うが、自然石そのものの色を見せるというのが本来の趣旨で、この脱色というのは黒いアスファルトのタールの色が透明になったという意味で一般的に使われている。基本的には自然の石の色がきれいに出る舗装だと思う。

- ・瓦廃材を利用した舗装で、「瓦の色によっては、きつい色になってしまうおそれがある」とあるが、温泉津のはもうちょっとベージュっぽかった気がする。光の加減もあるのかもしれないが、きつい色ではないものもある。

- ・敷き均し系舗装の見た目の印象として、今の時点で資料の写真だけでいうと、瓦廃材を利用した舗装の色は採用せず、割と温かみのある明るいような色味ということでよろしいか。温泉津の瓦廃材は調べていただいて、最終的に決めてもいいと思った。

- ・一番右の（セメント系）ものは価格がちょっと高い。サンプルだと分かりにくいですが、セメントが入っているものは全体的に割と白っぽく見えるので、同じ石の骨材、いわゆる自然石を使っても、脱色アスファルトに比べてセメント系は白い面が見えてくるところがより多くなってくる。たぶんセメント系はカチツとした都市的な印象が強いのではないかなと思う。雰囲気としては少し変わってくるというのがある。今回、敷き均し系舗装の3つの材料から絞り込んでもいいかなと思う。

- ・骨材に何を混ぜるかというのはすごく興味がある。家でセメントにガラスカレットを混ぜて小さなものをつくったことがあって、費用が高くてもリサイクルっていうものをやるところはあと思う。アスファルトにするかセメントにするかは今日決まらないといけないのか。

- ・敷き均し系舗装のなかで、アスファルトにするかセメントを今日どうしても決めなければいけないということはない。敷き均し系は継続検討とし、脱色アスファルトに関しては地元の瓦などを混ぜるもので良いのか、特注だと修繕も大変なので、継続的に材料が供給できるかどうかも含めて確認してもらいたいと思う。

- ・誘導ブロックはよく色を間違える。色を慎重に選ぶべき。

- ・以前点字ブロックを貼り直した事例がある。それは点字ブロックと路面の色味の差がなくて、目の不自由な方が判別できなかったため。点字ブロックも一緒に検討すると良い。一本のラインが入るので、それが入ると印象が違ってくるような気がする。

- ・視覚障がい者誘導ブロックは結構大事な問題で、舗装に暖かみのある色を使うと、ブロックの黄色い色とバッティングして見えなくなる。基準上はブロックを黄色にしなければいけないことは決まっていない。色の差がちゃんとわかれば大丈夫ということなので、松江市内でもグレーのものとか存在している。黄色ありきではなく、視認できる輝度が違うもので、歩道の雰囲気が良いようなブロックを検討してもらいたい。ブロックも含めて出していただきたい。

④高欄

- ・高欄のトップレールは鋳鉄製でよい。

- ・よじ登り防止の検証をしてほしい。

- ・提案のように11cmぐらいの棧間隔にして、繊細さを出していて非常に良いかなと思うが、高欄を傾けた場合、よじ登り防止は非常に良いと思うが、歩いているとかなり圧迫感があるのかなというところがある。できれば宍道湖大橋の形状などを参考にさせていただいて、手前を低めにし、その先にトップレールがあると安心感が出ると思う。水辺に近づいて見やすくして尚且つ圧迫感がなくて安心感があるような構成を検討してほしい。

- ・高欄の棧のピッチを変えられないか。等間隔で5本入っているが、上を広めにして下の方を徐々に狭くするのはどうか。その方が安心感や安定感が出ると思う。

- これは表現上の話だが、14 ページの、「間隔が空きすぎると、子どもなどのすり抜けの心配につながる」という文言があるが、宍道湖大橋とか他のところは全部縦棧を使っている。しかし子どもが落ちたというような話も聞かないので、これは別に子どもが落ちないような間隔にすれば良いだけの話で、わざわざ書くほどのことではないと思う。
- 他のところは縦棧なのに、ここだけあえて横棧にするという冒険をする。このチャレンジが好きだが、そのあたりの整合性はどうするのかというのが気になる。
- 縦棧か横棧かは、印象に大きく関わってくるところがあると思う。個人的な印象だと、横棧の方がモダンな印象が強くなり、軽快な感じが出てくるかなと思う。水面の見えは横棧の方がよく見えると思う。縦棧の方が少し目が詰まってくるので、水面が見える範囲は限られてくると思うが、模型写真にもあるように、少し繊細な感じは出てくるかなと思う。どちらも答えとしてはあり得る形ではあるかなと思う。
- 松江市内は堀川の周りだと横棧がある。一般的にはまだまだ日本では縦棧が多い。
- 横棧は、登られることを嫌がるので、今回もかなり工夫していると思うが、足をかけにくい工夫をちゃんとしてあげることが大切だと思う。それをクリアすると横棧もしっかり扱えるようになると思う。
- 折中案はないのか。
- 何をもって縦と横というのはよく分からない。松江大橋が横に2本で縦はもっと入っていて、模型を見ると高欄の支柱が2m ピッチで入っている。それで横棧が入っていて、縦と横の違いが分からない。
- すり抜けを防いでいる棧がメインで使われているのが縦か横かということが縦棧・横棧の違いかと思う。
- 大橋川の印象として、これだけ街と水面が近い川というのはほとんど日本になくなってしまった。そういう貴重な水辺だ。もちろん恐怖心を感じるようでは困るが、水辺を近くに感じながら渡れるというのは大橋川の大きな価値だと思う。そういう意味では水面の見え方を大事にしながら決めていくというのも1つの考え方としてはある。市内を入れれば横棧も多いということだが、横棧の方が水面の抜けとしてはよく出てくるのかなと思う。理屈を入れるとしたらそのような考え方になるのでは。

• 他の橋とどうかというところで、新大橋整備基本方針の中に、モダンでとか、他の橋と違う何か洗練されたというのがある。また、やはり水辺が見やすいといった視点で考えた時に、横棧というのも悪くないなという感じもある。実際に横から見ると縦棧だとほとんど水面が見えない。上からは見えるが下からは見えないかなと思う。横棧だとかなりの視点で見えたり、例えば車から見たとしても真横だったら見えるがちょっと斜めにいっても水が見えるとか周辺が見えるというのは非常に魅力的な視点場としてあるのかなと感じた。

• 大体自転車で渡っているが、縦棧だと正直言ってほとんど見えない。横棧にすると想像する限りでは見えるのかなと思うが、問題は幅の視線が斜めになるので、横幅に水平になっていると、横棧になってもよく見えない。視線と同じように斜めになっているとかなり水面がよく見える。そういう工夫は横にするにしても必要なのかなと思う。その場合、足元が見えるので恐怖感が出てくるので工夫が必要だが、個人的には横棧というのはありかなと思っている。この橋を架けるのにひとつ、この委員会としてメッセージを与える意味では横棧というのはすごいチャレンジングだなと思っている。おそらくこれから残りの橋もいずれ何十年したら架け替えるところも出てくると思うが、その時に、従来とは違う見え方を提示できる、参考になるようなメッセージが、横棧にすることによってできるのかな、という意味ではすごくチャレンジングで好きであると先ほど申し上げた。

• 面の見え方で言うと、丁度今回の検討案も横に入っているバーが90度ひねってあるか45度ひねってあるかで、目の高さから見た時に水面方向に細く見えると思う。

• 横棧タイプに絞ることができれば、長いのは無理だが、次回原寸の模型をもって来てもらいたいと思う。その模型で傾き具合とか、トップレールの形など確認してもらったり、横棧の位置も模型の中で簡単に変えることができればだが、そういったことも工夫としてはできるのかなと思っている。

• 高欄の傾斜角は何度くらいか。

(上記質問に対する事務局回答)

• 78度。

• こういう内側に傾いている前例もあるのか。

(上記質問に対する事務局回答)

• ある。具体的にどこというのは今すぐには言えないが。

・高欄の傾きも原寸を見ていただくと、もう少し起きても大丈夫なんじゃないかとか、今の傾きでも、図面で見るときついような気がしたけど実際は思っていたよりそんなことないとか、そういうところを最後にご確認いただけたら、そこの角度を直すというのは、その時点でできることかなと思う。

・橋から落ちた人は松江市民ではあまりいないということを感じているが、あまり心配しなくてもいいのでは。

・高欄の塗装の色はどのように考えているか。

・色は選べる。

・塗り分けの検討をこれからやると思うが、それに合わせてということか。

・鋳物にすると黒になるわけではなく、選ぶことができる。

・13ページの表のステンレス製+ガラスで、「都会的すぎる印象が大橋川の風景にはそぐわない」と書いてあるが、合庁前や、宍道湖・夕日スポットでもガラスを使っている。ガラス素材＝都会的過ぎるというのはちょっと言い過ぎかもと思う。

・資料で公開すると他の案件に影響を及ぼすのもどうかと思うので、これは修正することをお願いしたい。

⑤地覆、歩車道境界

・地覆に使う材料について、是非いぶし瓦を検討してほしい。島根県内で失われていくいぶし瓦の文化、津和野の堀庭園、松江城、新大橋なら残せるかもと。松江のものや島根の歴史を考えた時に是非ご検討をお願いしたい。

・いぶし瓦は色味の議論があるかもしれない。温かみのある色かどうかなど。しかし1つのアイデアとして検討するときの候補の可能性に入れてもらえれば。

・地覆と歩車道境界の工夫は結構大事だと思う。計画では、歩道幅も広くはなるが車道幅も広がるため、全体として歩行者を大事にしている空間だということを強いメッセージで出す時に、橋外から見ても効いてくるような地覆や、車と歩道の上に立ち上がっている壁のところを工夫するというのは結構大事なことだと思う。

・どのような素材を使おうと、出来上がりがどうなるのかが一番大切であって、やはり提示の丸い皿ではなく、実際に貼ったらどうなるかというようなものを見せていただきたい。

・地元の焼き物の海鼠釉は非常に良い色だと思うので、できればサンプルを事務局の方で考えられないか。出来る限り努力していただきたい。

・歩車道境界の基礎形状について、角を少し丸くできないか。転んだりした時に結構ケガをする。以前松江大橋だったかで角があったが、今は丸くなっていると思う。それがタイルで出来るかが分からないが、そのようにしていただいたら危険性が少ないかと思う。

・確かに上と下を見比べると上がかなりとげとげしい感じがすると思うので、是非そういう工夫をした形で検討していただければと思う。

・島根県内は結構いろんな石があるので、展示用にサンプルをずっと並べたらいけないのか。思わず渡ってみたいくなる、歩道空間をもっと遊びたいと思うので、焼きものでもいろんな焼きものが松江の島根県内にあるので、それでブロックを作ってもらって、並べるのも手だし、もうちょっと遊んでもいいのかなと正直思っていて、もっと言うと根本的な問題になるが、歩道空間が左右対象でなくてはいけなくなるとなると皆さんは思っているのかなというのが僕の中では理解が出来ない。使いたい空間として考えるときに別に左右対称である必要がないのではないかと思う。

・橋の外から見える地覆部分は、あまりいろんなものを混ぜると柄ものが強くなるので、できる限りこれぞという素材をちゃんと入れた方が良いと思うが、内側の部分については全て同じものを延々と貼り続けるかどうかというのは考えてもいいかなというところもある。どこまで散らすのかというのはあるが、内と外でのやり方は変えてもいいかなと思う。

・歩車道境界のタイルや石貼りを取り換えやすいようにしておくというのはできるのか。来待石も好きだが、寿命が持たないかと思うし、湯町焼きは耐久性が心配なところがあるが、そういうものでも何十年か経った時に材料交換できるといい。地元の良いものをディスプレイする場所みたいなこともできるのかなと思った。島根のいろんなものが伝わると良い。

・市民参加については、7月の市民意見交換会の時に、1位は現場見学会や情報発信だったが、市民の皆さんからの材料寄付が2位にランクインしている。以前にも紹介したが、近年、公共空間の整備を行う際に、市民の皆さんやその地域出身の皆さんたちなどから材料

を寄付してもらい取り組みが少しずつ増えている。新大橋でいえば、地覆とか歩車道境界のところに入れようとするものが、一番市民参加がやりやすいと思う。皆さんにも賛同していただければ、その方向で検討を進めていただければと思う。

市民参加をしている事例の多くは、寄付したものに名前を彫るようにしている。大変良いことだと思うが、一人がたくさん寄付したいと思っても自分の名前が 20 個とかあるといやらしい人みたいになってしまうし、記名されたものが割れる場合もある。また、寄付代が寄付者の記名費用で消えてしまうことが多い。そう考えると、名前は一個ずつには記さず、名前は別途どこかにまとめて記すという方法もある。私が知っている事例だと、新潟の萬代橋で、橋の側面につける昔のライトを復元するために市民からお金を募って、2 千万くらいの寄付が集まった。そして新潟のローカル紙の一面に寄付者の名前を書いてお礼のメッセージを出していた。ずっと残すやり方もあるし、新聞で一度出すというやり方など、やり方は多分いろいろあるのかなと思う。いずれにしても新大橋では 700 件以上のパブコメが集まるほど皆さんの関心が高い橋であり、ぜひ市民の皆さんに参加してもらえる方法を検討してもらいたい。

- ・富山市の LRT の駅には 1 人 5 万円だと思うが市民がベンチを寄付し、真鍮か何かのところにメッセージと日付と名前が入っている。新しい駅を作るといって応募者殺到という感じで、市民は何かに貢献したいという意思が強いので、是非それはやっていただきたいと思う。方法はいろいろあるが、うまく対応していただきたいと思う。

⑦橋上の工夫

- ・ベンチは、背後を車が通るため落ち着かない、利用されないのでは。橋上空間に変化がなく単調。京店のハート石や特別な景色がその場所で見えるなど、ストーリー性や目的を持たせたものが橋上にあるとよい。そうした場所として、アルコーブがあるのが望ましい。
- ・いろんな意味でどう利用するのかということを少し議論した上でどうするのか。ベンチも含めて、もう少し幅広の議論をした方が良いのかなと。ちょっとパーツにこだわりすぎているところが気になっている。
- ・宍道湖大橋の場合は外側にあるが、ベンチは安全性をチェックして是非とも設けていただきたい。やはり 10 分でも 20 分でもそこに佇んでいただくことが必要だと思う。
- ・ベンチの設置は、歩道を確保しないといけない幅の関係で、川側ではなく車道側になってしまうかもしれない。

- ・後に車が通ったら怖くないかなという気がするが、それでも高齢の方とかは少し腰を下ろして休めるような場所があった方が良いのではないかという気もする。提案では背もたれがあるものだが、そこまでいかない簡易なものにするというのものもあるかもしれないし、背もたれがある方が少し安心できるというのものもあるかもしれない。

- ・橋の上にベンチを一体化してつくらないといけないのか。後から別のものを置くとか、そういうことはありえるのか。

- ・後から別のものを置くということはあると思うが、全体のデザインを崩さないということ、また、固定するというのが条件だと思う。あまり取り外せるようなものや移動が簡単にできるものは管理上難しい。

- ・すごい長い橋ではないので橋詰めなどを利用してベンチを置くということもできるし、手すりに寄りかかっていたくという意味でもそれは可能かなと思う。

- ・事例はあるのか。もしあればこういう使い方をしているところが参考にできれば。

- ・道路構造令上、ベンチを置けないのではないかな。

(上記質問に対する事務局回答)

- ・歩道の有効幅員として 2m50 cmを確保し、いろいろな施設を設置するための幅として 50 cmを確保する。その中だったら置くことは可能だと思う。

- ・有効幅員というのがあるので、先ほどの川側に置くというのは難しい。もっと歩道が広ければ別かもしれないが、現実的には置くとすれば車道との境になるのかなと思う。

- ・景色を眺めるとすると車道側にベンチがないといけない。川を見たいから。反対側だったら車しか見えない。意味がない。やはり車道側にベンチがあって東の川を見る。西の宍道湖を見る。そうしないと車が邪魔して見えない。

- ・ベンチを置くとすると外側を眺めるような位置に置くということになるかと思う。

⑧照明

- ・夜、橋を浮かび上がらせるようなライトアップが必要。夜間の橋の見え方が重要。

- ・照明の配線を、車両用防護柵の基礎部分にうまく管で通し、埋め込まない形でこの収ま

りを考えていただくといい。照明の配線は絶対に来るので、それを周りに見えない形にきれいに収めるとするのは是非考えていただきたい。

- ・照明の配線の収まりはすごく大事な点だと思う。照明についても随分工夫するときに、意外と配線は苦労される。見た目の問題がある。
- ・新大橋単体の照明を考えるというよりは、大橋川の、松江大橋の明かりだとか、それから左岸側のわりと古い建ものところにあるようなぼつぼつした明かりだとか、これから整備される右の方の明かりも含めて大橋川をくるむような明かりを作っていこうというのが以前の委員会で話したことと思う。そういったことがまず達成される必要があるということが18ページで述べられている気がする。
- ・この照明というのはイメージ的には何時くらいを想定しているのか。夜9時を過ぎるとほとんど人も歩いていないし、逆に寂しさを演出するというのも、なかなか県庁所在地の街の真ん中でこんなに静かな夜はないという静けさをかもしだすというイメージもある。あと、周辺の看板のライトも夜遅くには全部消える気がする。早い時間帯と遅い時間帯で照明の点き方が全然違うので、どの辺を想定しているのかというのが気になる。それぞれの時間で楽しみがあるのだろうが、夜遅い時間帯の、残った明かりだけの夜中の雰囲気は個人的にはすごく良いと思う。
- ・今は特定の時間だけの想定に限定してはないという気がするが、大きな分かれ道として新大橋だけで考えるのか、それとも大橋川をくるむような、松江大橋などもひっくるめて考えるのかというのは、ひっくるめて考える方をとっていると思うが。
- ・18ページにある夜景の写真のように、特に松江大橋の照明の様子と大橋川の左岸側の照明が、点が続いている印象がある。新大橋の照明は白っぽくなっている。可能であれば、照明の色の温度をできるだけ揃えていただきたいと思う。それから今の新大橋の車道照明の明かりが、外にこぼれやすいところがあるが、もう少し路面を照らすことに特化したものを、より路面だけに光を注ぐようにしてもらおうと、光の見え方としては下側に入ってくるフットライトの光が生きてくるという感じかと思う。周辺の照明を意識して決めていただくといいのかと思う。この辺は河川側としても照明についていろいろあるかと思うが。
- ・大橋川の河川改修上、照明のことまで考えていないが、松江市の方でも光のマスタープランだとか、基本はその計画だと思う。新大橋の照明に関しては、やはり橋を安全に渡ることがまず1つ。そして周辺のライトアップについては、色だとかもちろん重要だと思う

が、何を対象にするかをよく考えてやる必要がある。とにかく周辺に照明を、ということであれば、私達は堤防上の道路を通ったり、歩道を歩く上での防犯だとか、そういったことで照明の検討が出てくると思う。そういったところで周りの照明の検討と合わせてできるよになればということはあるが、市の光のマスタープランを踏まえて考えては、と思う。

- ・おそらく新大橋だけがピカピカに光る照明というのはないと思うので、大橋川をくるむところと歩道を合わせながら、今の情緒ある明かりというのがいいと思うので、それを伸ばしていく形で進めていくのがよいか、そういう方向で進めていってよいか。

⑨色彩

- ・色彩については市民の意見も聞くと思うので、今の新大橋の色を基準色として1つ入れておくのが良い。
- ・塗り分けの検討だが、ブラケットから高欄が一体のように見えるという提案の趣旨から言ってパターン3は候補から外すべきだと思う。検討をシンプルにするために外してよいか。パターン1と2は、これから選ぶ色の中でどうするかというのは両方ともあり得ると思う。
- ・候補色に関しては、皆様の印象としても、赤系とか黄色系ではなく、大橋川にかかっているのは白から青の間の色の橋だというイメージなんだと思う。基本的には青か白の色の中で、パターン1パターン2で組み合わせを出してもらい、次回の委員会の中でその何パターンかを決め、それをどういう形で市民の皆様にも参加いただくかということも議論したい。

【総括】

- ・車両用防護柵は、配線の収まりを確認しつつ可能なら埋め込み型で検討を進める。
- ・排水は、鋼製排水溝とするが、蓋の部分の表面仕上げを検討する。
- ・デザイン方針は、eの照明に「松江大橋とその周辺との関係性」など、「周辺」という言葉を加える。
- ・舗装は、敷均し系とする。ただし、視覚障がい者誘導ブロック等の材料選定も併せて検討する。

- ・高欄について、手すりを鋳鉄製とする。13ページの表中、「ステンレス製+ガラス」の「都会的過ぎる印象」の文章を削除する。高欄全体は鋳物+スチール製とし、横棧タイプをベースに検討し、できれば原寸の模型を作り、傾きや手触りなど諸々のことを確認する。
- ・地覆と歩車道境界縁石は、いずれも仕上げなしやスリットではないもので、人が近づける工夫をする。そのあり方については、今回提案の材料やいぶし瓦といったものを具体的な加工の仕方も踏まえ、現実的に可能なバリエーションで提案する。
- ・歩車道境界部のベンチについて、考えていく中で置いた方がよいということであれば提案する。
- ・照明は、現在の方針で示されているように、松江大橋や大橋川沿いの明かりとの調整をとれる案で進める。できることなら、松江市や出雲河川とも協議をして歩調を合わせると良い。
- ・色彩について、塗り分け方はパターン1、パターン2のいずれかとする。候補色は、この検討方針に示されているものに加えて、現在の新大橋の色とし、基本的には今回示されている白、無彩色、青系のいずれかの中から選んでいく。

4. 議事3) 橋詰空間について

【意見】

- ・かなり大事な部分だと思っている。
- ・北詰は高さを吸収するからほとんど何もできないのではないかと。見た目がすっきりでそのたもとに住んでいる人が不快に思わないものくらいしかできないのではないかと思う。そうすると南詰をどうしていくか。よその人、住んでいる人、人の流れとか、何をしてもらうのかということをもう少し詰めて、南詰の座って休める橋詰空間は西側だけにするなど、左右対称でなくても良いのではないかと。
- ・まだアバウトな図面なので分からないということなのかもしれないが、特に南岸に関しては、次回は是非もう少しイメージのわかる資料を出せるようにしてもらいたい。
- ・橋の両側があって横断歩道などはどこの辺りにつくのか。

(上記質問に対する事務局回答)

- ・南詰にある信号交差点には、今は橋側、東西の川側には横断歩道がないと思うが、今協議

している中では、4か所すべてに横断歩道を設置する計画。北詰の交差点には横断歩道を設ける予定がなく、2つ北の筋にある信号交差点の横断歩道で渡れるような計画。

- ・北詰は橋の下をくぐることは可能か。
- ・今の計画上では橋の下は両方とも通れるようにしている。
- ・南岸は港湾区域になっているため、なんでも自由にできるというわけではないと思うが。
- ・港湾緑地がある。港湾の管理上とか、あるいは河川の部分は管理上制約がある中でできるものを計画していければと思っている。
- ・自由に出来そうな感じになってしまうので、制約条件があるということだけは明示しておいてほしい。
- ・北岸の改修は具体的にどうするかまだ決まっていない。どうなるかが分からない中で、じゃあどうするかと言われても、聞かれた方も困ってしまう。その辺を詰めて、どこまでが可能か明らかにしてからの方が皆さんいろいろ答えやすいと思う。
- ・南岸に関しては大橋川改修の関係で出雲河川でも力を入れて水辺の整備をされると伺っているので、そことうまく連携をして、橋を渡った人が場合によっては橋のたもとで休める、あるいは河畔、水辺にしっかり流れていくような動線を作ってもらう図を、次回は具体的な絵で見せていただきたい。
- ・北岸についてはいろいろ条件が決まっていないとは思いますが、今回の新大橋の架け替えの目的の大きなひとつが、大橋川沿いのまちに活気を生むことだと思う。資料にあるような背後の土地利用にあわせた橋詰空間は、これまで日本でも、世界で見ても実現している場所は多くないと思う。しかし、この水辺沿いは非常にポテンシャルが高いため、地権者の意向や関係機関の調整が必要なことは重々承知しているが、橋ができて終わりではなく、橋ができたことによって歩く人が増え、その人たちがちょっとお茶を飲んで休んだり、そしてそういう人たちが来ることによって新しい店ができ、より魅力的なエリアに変わっていくことを目指してほしい。それを実現する上で、背後の土地利用にあわせた橋詰空間のあり方は非常に大事なところだと思う。出せる情報は限られるとしても、その方向でぜひ調整していただければと思う。

5. 次回委員会に向けて

【意見】

- ・橋の下がくぐれるようになるので、橋の下を歩けるようにするには、兩岸の橋の終わりの部分、橋台のところをきっちりデザインしておく必要がある。次回は橋詰まわり、橋台のことを詰めたものを提示いただきたい。今日の、特に橋上空間についていただいた意見を踏まえた案を出していただき、それを議論できると概ね橋のことが確定できるかと思う。

以上

■ 新大橋整備基本方針

テーマ

『水都・松江の風情を彩り、 新しいふるさとの原風景をつくる橋』

大橋川は、嵩山だけさんや和久羅山わくらやまの山並みと秀峰・大山を背景に、柳そよぎ情緒あふれるまちなみと一体となった水都・松江を代表する水辺です。この川に架かる松江大橋と新大橋は、伝統と未来を担う両輪のような関係として、永く市民の暮らしを支え、大橋川の風景を形作ってきました。

このたび、架橋から 80 年以上が経つ新大橋は、大きな地震への対応と歩きやすい歩道の実現のため、大橋川の改修に合わせて、新しい橋へと架け替えることになりました。

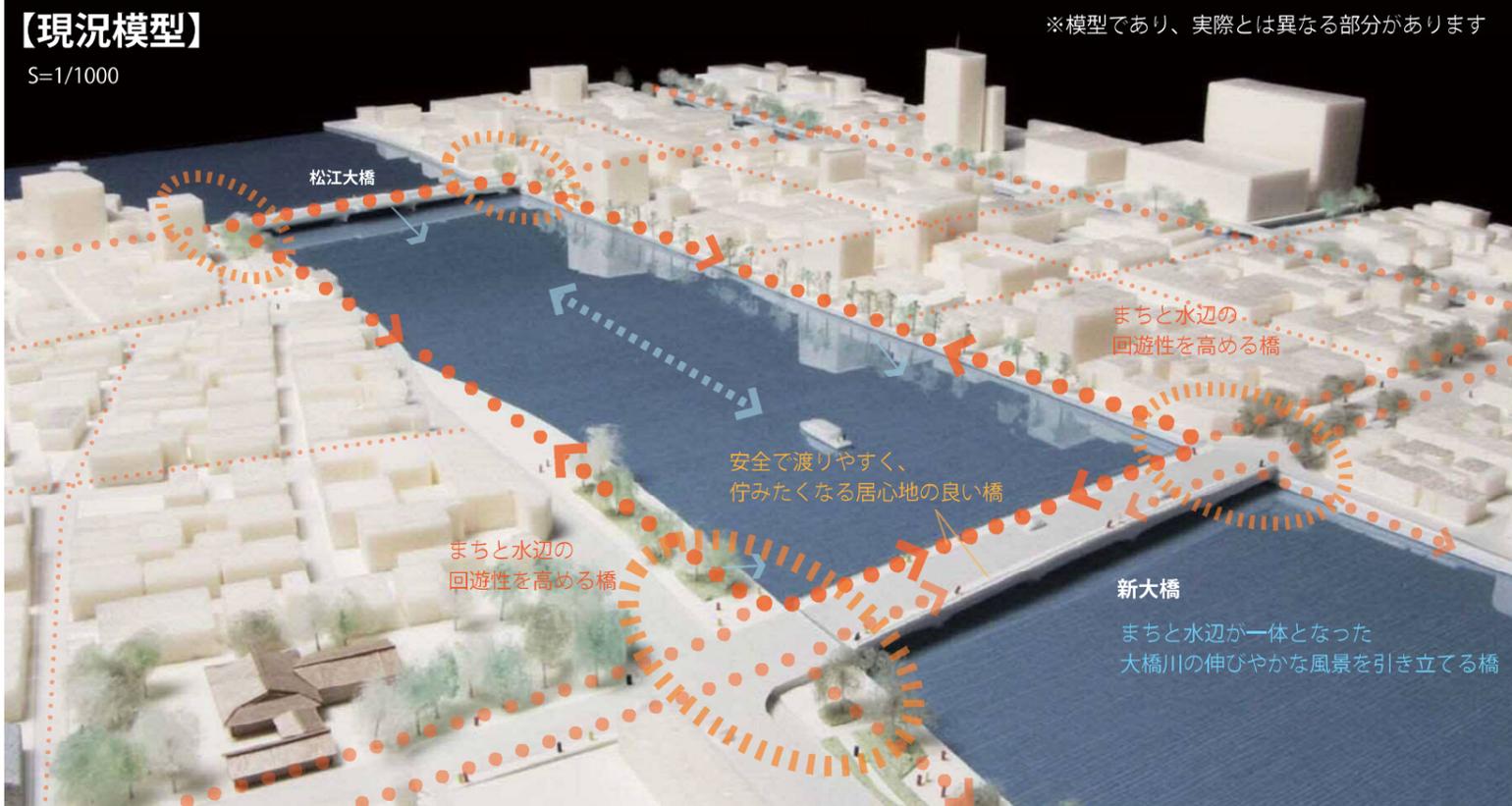
新しい新大橋の設計にあたっては、水都・松江の風情を彩る現代的で佳麗かれいな姿と、渡りやすく佇たたずみたくなる歩行空間、まちと水辺の回遊性を高める橋詰空間を備えたデザインとします。

これにより、通学時に眺めた朝靄あざもやに煙る姿や、家族と河岸から眺めた青空に映える姿というように、大橋川周辺が市民ひとりひとりの原風景となり、ふるさと・松江への愛着と、まち全体の魅力をより高めるような橋を目指します。

※注 佳麗な=整って美しいさまをあらわす

コンセプト 上記テーマ達成に向けて、計画上大切にすべき3つの柱

- ・まちと水辺が一体となった大橋川の伸びやかな風景を引き立てる橋
- ・安全で渡りやすく、佇みたくなる居心地の良い橋
- ・市民の居場所となる水辺空間や川沿いのまちへの回遊性を生み出す橋



設計方針

コンセプト実現に向けた、設計上の具体的な留意事項

① 全体方針

- ・新大橋と松江大橋の関係性を際立たせるよう、城下町の雰囲気継承する松江大橋に対して、新大橋はまちの新たな賑わいにつながる、モダンなデザインの橋とします。
- ・長い年月を経ても見飽きない橋とします。
- ・松江大橋や大橋川の両岸など重要な視点場に囲まれているため、眺める場所(距離・角度)や時間帯によって、異なる表情を楽しめるデザインとします。
- ・遠景では大橋川の風景になじむシンプルで美しい形態と、近景では洗練された意匠とを持ち合わせ、訪れた人が渡ってみたい橋とします。
- ・橋詰付近には、座って橋と水辺の風景を眺められるような溜まり空間をつくります。

② 橋梁本体のデザイン

- ・水辺やまちの風景が主役になるように、上部に構造がなく、風景のスケールに合う橋梁形式(桁橋)とします。
- ・大橋川に対し左右対称となり、水平方向の伸びやかさと水面の近さとを両立する側面シルエットとします。
- ・歩行者や自転車が渡りやすいよう、路面高さを低く抑える工夫をします。

③ 橋上空間のデザイン

- ・安全で歩きやすく、どこでも佇みたくなるような居心地の良い空間デザインとします。
- ・手触りの良い素材や親しみのある材料を用い、橋梁形状と調和する高欄・親柱のデザインとします。
- ・暖かみがあり、自然素材の風合いを活かした材料による舗装デザインとします。
- ・まちや水辺とつながる灯りのデザインとします。

④ 橋詰のデザイン

- ・まちや水辺空間とスムーズに行き来でき、歩行者の回遊性を高める橋詰空間とします。
- ・背後の街路やまちと一体となった『歩行者優先の空間デザイン』とします。

⑤ 市民参加のデザイン

- ・計画段階から市民に参加してもらい、愛着ある橋とします。
- ・見学会やイベントなど、市民参加型の取り組みをおこないます。